

## 【目次】

### 1. アーカイブ No.8

連載「日本労働会館物語」第 5 回 2010.03.15 発行の第 6 号に掲載

### 2. 8/1(火) 友愛会創立 111 周年を記念する会

### 3. 8/29(火)～31(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・惟一塾(逢見直人塾長・ (函館)

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

### 1.アーカイブ No.8

連載「日本労働会館物語」第 5 回 2010.03.15 発行の第 6 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 5 回

#### <ユニテリアンと金子堅太郎>

前回、ユニテリアンの紹介、招聘を行った矢野文雄(矢野龍溪)について記述しました。今回は金子堅太郎(1853～1942)を取り上げ、土屋博政慶大教授の諸論文を参考に解説いたします。

金子は福岡生まれで司法大臣・農商務大臣、枢密顧問官などを歴任した明治期の官僚、政治家で父は福岡藩士。藩校修猷館で学び、後に米ハーバード大学で法律学を修めています。帰国後、1880 年に元老院に出仕。首相秘書官等を務め、明治憲法の草案起草にも参画。日露開戦の折には米国に派遣され、ルーズベルト大統領らとの交友関係を駆使して外交工作に当たっています。

金子はハーバード大学在学中にユニテリアンと親交があり、米国公使のときにはユニテリアン指導者ヘイルにユニテリアン宣教師の派遣要請を行っていました。明治政府高官の金子が宣教師派遣を求めるなどは、今日の見れば奇異な感じがします。

実はこの頃、「伊藤博文ら政府内の開明派が、(不平等)条約改正の実現を図るため、西欧並みに国会や憲法を設けることにしたが、源に宗教が必要と感じ、宗教も西洋化」しようとしていました。しかし、当時来日していた正統派のキリスト教宣教師たちは宗派性が強く、また日本の宗教や伝統的な文化に不寛容で、進化論を否定していました。このため伊藤や側近の森有礼(文部大臣。1889 年暗殺)、金子らは「自由主義と非宗派性」を持つユニテリアン派に共感し、日本への招聘に動いていたのです。彼らは「ユニテリアン主義が日本国民の道德改革に寄与」すると考え、ユニテリアン主義を日本に取り入れ、近代国家にしようと考えていたのです。

しかし、まもなく金子らはユニテリアン支援から手を引いていきます。明治政府が1890(明治23)年に「教育勅語」を發布し、近代国家をめざす日本の国民道徳としたからです。この点について土屋教授は、教育勅語が發布されたことにより「道徳改革でユニテリアンを支援する必要を感じなく」なり、「教育勅語で十分という意識が強まったのであろう」と説明しています。天皇中心の国家体制構築を急ぐ明治政府や金子らには、もうユニテリアンは不要になったのでしょうか。

しかし、「教育勅語は日本人にしか通用しない国民道徳であり、教育勅語をもって道徳改革が十分とした金子の態度は、余りに便宜的で底の浅いもの」であり、「金子のユニテリアン支援が単なる政策的なものに過ぎず、何ら主体的なものではなかった」のです。

こうして金子はユニテリアン支援から手を引きますが、そこに官僚としての金子の限界を見ることができます。しかし、彼が一時期とはいえユニテリアンの寛容性・合理性・進歩性、「自主独立の精神」を評価し、日本招聘に動いたことを忘れてはならないでしょう。(連載第5回終り)

参考文献:土屋博政教授『ユニテリアンと福沢諭吉』、同論文「社会運動の源流、ユニテリアン」他

## 2. 8/1(火) 友愛会創立 111 周年を記念する会 108 名参加

「友愛会創立を記念する会」(高木 剛会長。労働組合14組織、一般財団法人日本労働会館、株式会社友愛会館、労働運動関係者で構成)は、8月1日の11時、友愛会館ホールで記念式典を開催しました。108名の参加者を集め、式典では、この1年の物故者の紹介と黙祷をささげ、主催者を代表して高木会長の挨拶の後、連合・清水秀行事務局長、民社協会・川合孝典代表、政研フォーラム・谷口洋志理事長のご来賓より挨拶を受けました。

友愛会は111年前の1912(大正元)年8月1日、鈴木文治がユニテリアン教会・惟一館(現・友愛会館)で結成した中央労働団体で、その後、総同盟(戦前)へと発展。戦後、総同盟として再建され、同盟を経て現在の連合(日本労働組合総連合会、芳野友子会長)へと発展しています。



「友愛会創立を記念する会」は、この日本労働運動の出発点、そして民主的労働運動の源流とも言うべき友愛会創立の意義を顕彰し、そのメッセージを語り

継ぐための会。会員相互の親睦と労働運動の発展に資するため毎年8月1日、連合の後援を受け、講演会と記念パーティーを開催しています。今年は、コロナの緩和もあり、4年ぶりの記念パーティー開催とし、講演会を中止し懇親会を重視しました。総員108名の参加者は久しぶりの再会を喜んでいる様子でした。

### 3. 8/29(火)~31(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・惟一塾(逢見直人塾長・(函館) 13名

8月29日(火) UA ゼンセン・流通部門「第三期 惟一塾」の要請により、藤吉館長が出張講演をしました。演題は「次世代に期待すること」。内容の要点は、産業別労働組合の役割と責任、流通労働組合の位置づけ、労働運動と政治、私たちの労働運動思想、同盟的なコーポレートガバナンス(企業統治)の具体的なあり方、生産性運動三原則の今日的な理解、生産性経営への転換をどう図るか、あるべき労使関係は友愛会から同盟への発展の中にあり。など二泊三日で若い塾生たちと膝を交えて、飲み、語り、話し合い、大変中身の濃い時間を過ごしました。参加者の皆様の熱心な姿に、明るい未来を感じました。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL 050-3473-5325

Eメール [yuirodorekishikan@rodokaikan.org](mailto:yuirodorekishikan@rodokaikan.org) HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

-----惟一館から 129 年、友愛会から 111 年-----